採血前後の注意

1. 採血の日時はなるべく早く受持医、看護婦と打合わせて、はっきり決めておいて下さい。
2. 採血の前夜は睡眠を充分にとり、身体を休めておくようにして下さい。
3. 採血直前の食事はできるだけ御遠慮下さい。
   2～3時間前に軽い食事をするのはよいことです。
4. 採血後30分間は静かに休憩して、その後半日位ははげしい運動はさけて下さい。
5. 採血中または採血後に気分が悪くなったり、めまいをおこすことがまれにありますがもし気分が悪くなったら我慢しないで、近くにいる医師または看護婦に連絡して下さい。

## 教　務　部

# チェックリストの効果について

発表者　横山洋美
看護学校教務一同

I　動　機

新カリキュラム以来看護の分野が広範囲となり、対象の理解のみに重点が置かれ、基本的技術を軽視する傾向にある。そこで一年の早期に看護の基本を裏付けと関連させ、確実に身につけさせたいとの意図でこの研究に当った。

II　目　的

1. 看護の基本を裏付けと関連させ確実に身につけさせる。
2. 看護に興味を持たせる。

III　研究方法

1. チェックリストを作成し事前学習をさせる。
2. 臨床場で基礎実習をさせ、学生一人一人についてチェックする。
3. データーの分析
   1）学生からのアンケートの分析
   2）チェックリストの分析
   3）学生の反省会記録の分析
   4）臨床指導者からのアンケートの分析

5）テスト結果の分析

Ⅳ　実施と結果

1.　チェックリストを作成し事前学習をさせる。

a、チェック項目の決定

講義が終了した時点で、早い時期に更にそれを身につける為と、時間的関係を考慮の上、体温、脈拍、呼吸、血圧測定、清拭に決定した。

b、チェックリストの作成

（別紙の様式Ⅰ～Ⅲ）

c、各項目の目標を達成する為には欠かせない点をポイントとし、事前に理由を書かせた。

2.　臨床場で基礎実習をさせる。

a、臨床指導者との説明会を持った。

b、日時は7月18日の午後1時から4時30分までとし、3項目について実習させた。

c、指導者1人に学生2名をつかせ、各科に配置しチェックした。終了後に指導者とカンファレンスを行った。以上行った結果内容と時間はほゞ予定通り終了する事ができた。その場での指導者とのカンファレンスは、指導者の豊かな経験から生み出されたものが多く、学生への影響が大きかった。

3　データーの分析

学生からのアンケートの分析

1）アンケートを実習終了後6週間目に渡し行った。回収率は38人中28人で74％であった。

<結　果>

Ⅰ　復習について

①　復習をしたか

した……27人　　しない……1人

した人の内訳

体温……24人　　脈拍……25人　　呼吸……25人

血圧……25人　　清拭……22人

②　具体的な方法

㋑　教科書、ノートで復習した……26人

㋺　他の参考文献で復習した……　0人

㋩　実際にしてみた……25人

した内容

体温．脈拍．呼吸

| 時間（h） | 0.5 | 1 | 1.5 | 2 |
|---|---|---|---|---|
| 人数（人） | 6 | 6 | 1 | 1 |

| 回数（回） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6・ | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数（人） | 1 | 2 | 6 | 4 | 4 | 4 | 1 |

血圧

| 時間（h） | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|
| 人数（人） | 2 | 8 | 3 | 2 |

| 回数（回） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6・ | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数（人） | 1 | 2 | 6 | 4 | 4 | 4 | 1 |

清拭

| 時間（h） | 1 |
|---|---|
| 人数（人） | 1 |

ほとんどの者が教科書ノートで復習し又実際に行った者も多かった。

Ⅱ　理解度、興味について

①　理解度の変化

増した　　２４人

同じ　　３人

回答なし　　１人

②　興味の変化

増した　　２０人

同じ　　７人

その他　　１人

ほとんどの者が理解度が増しており、又興味を覚えた様である。

Ⅲ　今回の実習についての感想意見と今後の希望

①　チェックリストについて

良かったこと

・オール実習前にこの実習はとてもよい。

・細かい所まで復習できた。

・実習の大切さがわかった。

・看護が今まで以上にわかった気がする。

悪かったこと

・採点されているので、のびのびできなかった。

・項目にごくあたりまえの事がある。

・採点はナンセンス

・チェックリストに実習前より威圧された。

・理由づけの欄が狭い。

・時間が短かった。

・実習の中で会話が持てなかった。

・患者に与える負担が気になった。

・理論と実践が伴わなかった。

② 今後の希望

・チェックリストの理由づけを、皆で確認しあった上で実習に当りたい。

・点数をつけ判定する形式は、やめた方がよい。

・体温、脈拍、呼吸も学校で実習した方がよい。

・コミュニケーションの講義を早めにしてほしい。

・こういう実習はどんどんやった方が良いと思う。

・一項目が終る毎に実習してほしい。

・○△×位の評価にしてほしい。

・オリエンテーションの時間と内容をもっと多くしてほしい。

3－2）チェックリストの分析

Ⅰ 体温．脈拍．呼吸について

o出来なかった項目の主なもの

22 体温．脈拍．呼吸の測定を通して一般状態の観察をしたか……20人

23 測定の終了を告げ患者を整えたか……12人

5 体温計の水銀が35℃ 以下におりているか確認したか……10人

2 測定部位に氷のうや湯タンポを貼用していないか確認したか…… 9人

8 患者の検温側の手を反対側の腕にかけたか…… 9人

11 上腕をゆるめてから体温計を取り出したか…… 9人

o理由づけが完全に書けていなかった項目

5 体温計の水銀が35℃以下におりているか確認したか。

15 示指、中指、環指の3本の指をそろえて橈骨動脈に軽くあてたか

17 正確に1分間の脈拍を数えたか

19 正確に1分間の呼吸を数えたか

25 結果を指導者に報告したか

Ⅱ　血圧について

○出来なかった項目の主なもの

３２　一般状態の観察をしたか　……１８人

９　聴診器の点検をしたか　……１３人

２６　上腕を長時間圧迫したままにしなかったか　……１２人

２９　水銀柱に接続したゴム管をはずしてマンセットをといたか……１１人

３０　測定の終了を告げ患者を整えたか　……１０人

３６　結果を指導者に報告したか　……１０人

２　食後入浴後運動後処置後１時間は測定をさけたか……　９人

○理由づけが完全に書けていなかった項目

１４　マンセットの緊迫は指が２本入る位にまいたか

１５　衣服で上腕をしめつけていないか

１６　血圧計を患者の心臓と上腕の水平位においたか

２４　聴診器を上腕動脈の拍動部に軽くあてたか

２６　上腕を長時間圧迫したままにしなかったか

上記の項目で正しく行わなかった時は測定値がどうなるかまで書けていない。

Ⅲ　清拭について

○出来なかった項目の主なもの

２４　患者と適当な会話を持ちながら、なごやかな雰囲気で清拭できたか…２１人

２１　適当な圧迫で手早く拭いたか……１９人

２８　結果を指導者に報告したか……１８人

２３　清拭にあたって皮膚の状態その他を観察できたか……１６人

３　排尿させたか……１４人

１２　耳の後、臍部陰部足指の間等皮膚の二面が接している部分を注意して拭いたか……１０人

○理由づけはほとんどが正しく書けていた。たゞし１９の温湯の温度については熱傷の事を書けていない者が多かった。

３－３）学生の反省会記録の分析について

翌１９日に１時間にわたり、反省会を行った。

＜結果＞

つたないやりかたでもあんなに喜んで下さって心から嬉しかったし看護への意欲が湧い

た。

- はじめてだったのであせりで、何をしているかわからなかった。
- 会話を通して患者との人間関係を作っていく事を知った。
- コミュニケーションがほとんどできなかった。
- いつも患者の気持になって考え行動する事が大切だとわかった。
- 事前に勉強してないとやろうと思う事ができない場合がある。
- 何故そうするのか疑問を持つ事が大切である。
- 頭では理解していても実際にはスムーズに行かない。
- 学校での実習をもっと真剣にやらなければいけないと思った。
- 理論と技術が一諸になった感じがした。
- 直接患者に接してやった事は有意義であった。
- 臨床の雰囲気が少しわかった。
- 今後もこの様な実習をしていきたいと思う。

これ等は理解度、興味が増した事の裏付けと思われる。

3－4）臨床指導者からのアンケートの分析

7月24日に臨床指導者会議をもち、基礎実習についての反省会を行った。尚2～3の不明な点について9月27日に各科にアンケートをとった。回収率100％。

＜結果＞

I　実習時間について

| 項　目 | 良い | 短い | 長い |
|---|---|---|---|
| 全体の時間 | 10科 | 3科 | 1科 |
| オリエンテーション | 9科 | 2科 | 2科 |
| 清拭 | 9科 | 2科 | 2科 |
| 検温 | 11科 | 1科 | 2科 |
| 血圧測定 | 13科 | 0 | 1科 |
| カンファレンス | 5科 | 9科 | 0 |

カンファレンスの時間を除き他は良かった。

II　実習順序について

計画通りで良かった……5科

悪かった……9科

悪かったと思う場合良い順序を記して下さい。

・検温の後清拭をする……8科

・一項目づゝオリエンテーションをする……1科

・検温と血圧測定を一諸にする……1科

実習順序については検温の後で清拭をした方が良いとの意見が多かった。

Ⅲ　採点法について

・点数方式がよい……7科

・○△×方式がよい……6科

・○×方式がよい……1科

採点法については問題があった様である。清拭は2人づゝでやったので個人の採点がしにくかった　との意見が多かった。

用紙についての意見希望

・指導者の記入欄がほしい……3科

・詳しすぎて理解しにくい点もあった……2科

・各項の判定基準について説明がほしかった……1科

Ⅳ　そ　の　他

・実習を行った時期について

適切……10科　　早い……3科　　不明……1科

・学生の予習について

した事が認められた……14科

・実習態度

良い……14科

・ことば使い

良い……11科　　悪い……1科　　その他……2科

・意　　欲

あり……14科

予習した事を認め、実習態度が良く意欲があったと全科で言っている。

Ⅴ　基礎実習全体に関しての感想意見

今後への希望

チェックリストを用いた事は系統的に学習出来、学生も臨床もよい勉強となった。又患者を知る良い機会にもなったと言われ採点されるということで緊張はしたが、学生は意欲的に取り組み他の項目についても、たびたび実施してほしいという意見が多かった。

その他学校で患者との接し方を学んだり指導者のやる所を見学させたり等、患者への入り方について一工夫ほしいとの意見があった。又指導者が専任で指導にあたった為臨床は大変であったという声も聞かれた。

3－5）テスト結果の分析

9月21日と26日に期末試験に合せ、基礎実習で実習した項目についての試験を行った。

<結　果>

| 点　数（点） | 人　数（人） |
|---|---|
| 100 | 1 |
| 90～99 | 7 |
| 80～89 | 24 |
| 70～79 | 3 |
| 60～69 | 3 |
| 合　計 | 38 |

最高100点、最低61点で平均84点であった。

V　考　　察

1. 今回のチェックリストを用いた基礎実習の効果

① 復習した者は96％の高率を占め、そのうち実際に試みた者は89％にわたっている。その時間は、体温脈拍呼吸は30分～60分が大部分で、血圧については60分である。今まで以上に、放課後復習する姿が多く見られ、質問に来る者も目立ち、指導者も予習して実習に当った事を100％認めていた。以上より効果は十分あったと思う。

② チェックリストを用いた事により教務も指導者も系統的に統一して学生の指導に当れ、学生も細部にわたって学習できたといっていた。その結果85％の学生が理解度が増し、かつ興味がわいたと答えており、テストの結果にも平均点84点となってあらわれた。この様な学習方法は労力はかかるが短時間で大きな効果をあげることができる。

③ 実習を通して、学生は裏づけの必要性がわかり、実習の大切さを知ることができた。患者に接することにより看護する者のよろこびを体験し、看護への意欲を持った様である。また多くの者がコミュニケーションの大切さとむずかしさを知る機会ともなった。

2. 実習の時期についての効果

早期に看護への興味を持たせるという教務の意図は種々の資料にみられるごとく、ほゞ達成されたと思う。指導者の80％も適切と述べている。

3. 実施しての問題点

① 理由づけが「衣服で上腕をしめつけていないか」（血圧測定の項）に対して「正確な値が得られない為」という様に抽象的な表現が多かったが、これは、チェックリスト作成の時期と、そのオリエンテーションの不足から来たものと思われる。

② 多くできなかった項として、観察、記録、コミュニケーション等であったが、これは、個々の項についてまだ講義が済んでいない為と、学生がはじめての事でもありそれらに目を向ける余裕が持てなかった為と思われる。

③ 採点法については、教務の意図ができたか否かを知るところにあったので○×にしたが、ひとつの1科以外はこれではつけにくいといわれ、△を加えるか、点数方式を望んでいた。これについては今後検討を要すると思われる。

Ⅵ おわりに

チェックリストを用いての基礎実習は当初の目的がほぼ達成された。学生も指導者も継続を望んでいるので、残された問題を解決し更に充実させていきたい。

この実習に当り臨床の皆様には、なみなみならぬ御協力を頂き成果をあげることができました事を深謝いたします。

公衆衛生院専攻課程看護学科第8回生　教育課程研究
阿部正和著　看護生理学　医学書院

# チェックリストⅠ（体温・脈拍・呼吸）

目　標：体温、脈拍、呼吸を関連づけながら正しい測定ができる。

| チェックポイント | 手順番号 | チェックリスト | 基準評点 | 得点 | 左記の○印の項にチェックが必要な理由をあげなさい |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 安静にさせ検温の時間を知らせたか | 3 | | |
| | 2 | 測定部位に氷のうや湯タンポを貼用していないか確認したか | 3 | | |
| ○ | 3 | 食后、入浴后、処置后、運動后1時間はさけて測定したか | 5 | | |
| | 4 | 検温トレーの必要物品をそろえたか（容器、体温計、時計、メモ、鉛筆） | 3 | | |
| ○ | 5 | 体温計の水銀が35℃以下におりているか確認したか | 5 | | |
| ○ | 6 | 決められた時間に同一部位で測定したか | 5 | | |
| ○ | 7 | （体温）体温計の水銀部を腋窩の中央よりやや前方45°の角度で下方に向けて挿入したか | 5 | | |
| ○ | 8 | 検温側の手を反対側の腕にかけたか | 5 | | |
| | 9 | 患者の体位が安楽であったか | 3 | | |
| ○ | 10 | 10分間体温計を挿入していたか | 5 | | |
| | 11 | 上腕をゆるめてから体温計をとり出したか | 3 | | |
| ○ | 12 | 目の高さで体温計の示度を読んだか | 5 | | |
| | 13 | 体温計を使用后容器の中へ納めたか | 3 | | |
| | 14 | （脈拍）一方の手で患者の測定側の腕をささえたか | 3 | | |
| ○ | 15 | 示指、中指、環指の3本の指をそろえて橈骨動脈に軽くあてたか | 5 | | |
| | 16 | 3指に力を加えたりゆるめたりして脈拍の緊張度をみたか | 3 | | |
| ○ | 17 | 正確に1分間の脈拍をかぞえたか | 5 | | |
| | 18 | （呼吸）患者に気づかれないように胸郭の上下運動をみたか | 3 | | |
| ○ | 19 | 正確に1分間の呼吸をかぞえたか | 5 | | |
| | 20 | 測定中に呼吸の性質、型、異常の有無をみたか | 3 | | |
| | 21 | 体温、脈拍、呼吸の測定値と観察した事項を控帳に書いたか | 3 | | |
| ○ | 22 | 体温、脈拍、呼吸の測定を通して一般状態の観察をしたか（顔色、表情、皮膚の状態、活気、食欲精神状態等） | 5 | | |
| | 23 | 測定の終了を告げ、患者をととのえたか | 3 | | |
| ○ | 24 | 体温表に正しく記入したか | 5 | | |
| ○ | 25 | 結果を指導者に報告したか | 5 | | |
| | 26 | 使用後の体温計を消毒したか | 3 | | |
| | 27 | 使用後の体温計の水銀を35℃以下に下げたか | 3 | | |
| | 28 | 検温トレーを整理し、所定の位置においたか | 3 | | |
| | | 合　計 | 110 | | 回生　　番号　　氏名 |

# チェックリスト Ⅱ（血圧）

## 目　標：血圧が正しく測定できる。

| チェックポイント | 手順番号 | チェックリスト | 基準評点 | 得点 | 左記の○印の項にチェックが必要な理由を上げなさい |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 安静にさせ血圧を測定することを知らせたか | 2 | | |
| ○ | 2 | 食后、入浴后、運動后、処置后1時間は測定をさけたか | 4 | | |
| | 3 | 必要物品をそろえたか（血圧計、聴診器、メモ、鉛筆） | 2 | | |
| | 4 | 水銀柱のストッパーをはずしたか | 2 | | |
| ○ | 5 | 接合部に空気のもれはないか | 4 | | |
| ○ | 6 | 水銀柱に切れはないか | 4 | | |
| ○ | 7 | マンセットを対象に合わせて選んだか | 4 | | |
| | 8 | マンセットに空気が残っていないか確めたか | 2 | | |
| | 9 | 聴診器の点検をしたか | 2 | | |
| ○ | 10 | いつもと同じ体位で測定したか | 4 | | |
| ○ | 11 | いつもと同じ側で測定したか | 4 | | |
| ○ | 12 | マンセットのゴムのうの中央を上腕の内側に当てたか | 4 | | |
| ○ | 13 | マンセットは下縁が肘関節より上部にあるようにまいたか | 4 | | |
| ○ | 14 | マンセットの緊迫は指が2本入る位にまいたか | 4 | | |
| ○ | 15 | 衣服で上腕をしめつけていないか | 4 | | |
| ○ | 16 | 血圧計を患者の心臓と上腕の水平位においたか | 4 | | |
| ○ | 17 | 血圧計の水銀柱が垂直で看護婦側に向いているか | 4 | | |
| | 18 | 水銀柱のゴム管及び送気球をマンセットのゴム管に接続したか | 2 | | |
| | 19 | 送気球のネジは締っているか | 2 | | |
| | 20 | 送気は効き手でし、第1指、第2指をねじにかけたか | 2 | | |
| | 21 | 最高血圧を橈骨動脈で触診し、予測したか | 2 | | |
| ○ | 22 | 水銀柱の目盛を水平な視線でよんだか | 4 | | |
| | 23 | 上腕動脈の拍動を指で確かめたか | 2 | | |
| ○ | 24 | 聴診器を上腕動脈の拍動部に軽くあてたか | 4 | | |
| ○ | 25 | 最高血圧、最低血圧は徐々に減圧して測定したか | 4 | | |
| ○ | 26 | 上腕を長時間圧迫したままにしなかったか | 4 | | |
| | 27 | 送気球のネジを全開して空気を全部出したか | 2 | | |
| ○ | 28 | もう一度繰り返して、血圧値を確めたか | 4 | | |
| | 29 | 水銀柱に接続したゴム管をはずしてマンセットをといたか | 2 | | |
| | 30 | 測定の終了を告げ患者をととのえたか | 2 | | |
| | 31 | 測定値を控帳に記入したか | 2 | | |
| | 32 | 一般状態を観察したか（顔色、表情、活気、頭痛の有無） | 2 | | |
| | 33 | 測定后ストッパーをしたか | 2 | | |
| | 34 | 各接続部をはずしマンセットの空気を全部出したか | 2 | | |
| | 35 | 規定の用紙に記入したか | 2 | | |
| | 36 | 結果を指導者に報告したか | 2 | | |
| | | 合　計 | 106 | | 回生　　番号　　氏名 |

# チェックリストⅢ（清拭）

目　標：清潔の生理的、心理的要素を満足させる全身清拭ができる。

| チェックポイント | 手順番号 | チェックリスト | 基準評点 | 得点 | 左記の○印の項にチェックが必要な理由をあげなさい |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 患者に清拭をすることを知らせたか | 3 | | |
| ○ | 2 | 食后1時間以内や処置の直後をさけたか | 5 | | |
| | 3 | 排尿をさせたか | 3 | | |
| | 4 | 窓をしめ室温を適当にしたか | 3 | | |
| | 5 | 必要物品をそろえたか<br>温湯及び水（ピッチャーに入れる）、ウォッシュクロス、タオル、バスタオル、石っけん、タルカムパウダー、50％アルコール、ピッチャー2ケ、バケツ、洗面器2ケ、綿毛布2枚 | 3 | | |
| ○ | 6 | 患者にスクリーンをしたか | 5 | | |
| | 7 | 必要物品を使いやすいように整えたか | 3 | | |
| | 8 | 患者の寝衣をとり上下を十分おおったか | 3 | | |
| | 9 | 顔、耳、腕、頸部、胸部、腹部、大腿、下腿、足部、背部、腰部、臀部、陰部の順でふいたか | 3 | | |
| | 10 | 顔、耳については自分でできる場合はさせたか | 3 | | |
| | 11 | 足部については（特別な理由がなければ）足浴を行ったか | 3 | | |
| ○ | 12 | 耳のうしろ、臍部、陰部、足指の間など皮フの2面が接している部分を注意してふいたか | 5 | | |
| | 13 | 不必要な露出をさけたか | 3 | | |
| | 14 | 寝衣をぬらさないようにしたか | 3 | | |
| ○ | 15 | 末梢から中枢に向って拭いたか | 5 | | |
| ○ | 16 | 褥創の好発部位のマッサーヂを行ったか | 5 | | |
| | 17 | 適宜温湯をかえたか | 3 | | |
| ○ | 18 | 石っけん分をよく拭きとったか | 5 | | |
| ○ | 19 | 温湯の温度は適温であったか | 5 | | |
| | 20 | 患者の身体をしっかりささえて行ったか | 3 | | |
| | 21 | 適当な圧迫で手ばやく拭いたか | 3 | | |
| | 22 | ぬれたウォッシュクロスの端がブラブラしなかったか | 3 | | |
| ○ | 23 | 清拭にあたって次の観察ができたか<br>皮フの状態（色、出血、傷、発汗、乾燥、褥創、発疹）<br>その他（手指、爪の状態、浮腫の有無、筋肉、関節、骨格の異常） | 5 | | |
| ○ | 24 | 患者と適当な会話をもちながらなごやかな雰囲気で清拭できたか | 5 | | |
| | 25 | 清拭の終了をつげ患者を整えたか | 3 | | |
| | 26 | 終了後の状態をきいたか | 3 | | |
| | 27 | 物品の後かたずけができたか（特にピッチャー、洗面器など） | 3 | | |
| | 28 | 結果を指導者に報告したか | 3 | | |
| | | 合　計 | 102 | | 回生　　番号　　氏名 |